

持続可能な学校支援の仕組みづくりを!

これまでの成果

子どもたちにとって

- 1 地域の大人の方々とふれあい生まれた。
- 2 地域のことを知り、地域に出かける機会が増えた。
- 3 学習や活動に大人の方の多くの目があることで、安心感がある。

学校にとって

- 1 教職員の知らない知識・技術を教えてもらえる。
- 2 少ない人員の中で支援していただき、子どもたちへの指導に、ゆとりと広がり生まれている。
- 3 安全面に目を配っていただくことで、安心感がある。

これまでの課題

○ボランティアさんが固定化されてきている?

- ボランティア活動が広まらない。
- 学校支援について知らない人が多いのでは?

○コーディネーターや管理職が変わったら

- 「〇〇さん」だからできるけれど…
- 毎年、日替わりメニューみたいになるの?

解決に向けて

◆ ボランティア活動の有用性を広める。

- 活動の様子や、効果を発信すること。
- 地域の人材の掘りおこしを。

◆ 誰もが参加しやすい、息の長い活動を。

- 常に活動の見直しをはかりながら、地域の活動と学校の活動のマッチングを。
- 気軽に参加しやすい体制づくりと、無理のない程度の参加を啓発する。

学校

ボランティアコーディネーター

赤目まちづくり委員会
青少年育成部

錦生自治協議会
文化生涯学習部

学校支援ボランティア登録

学習支援、環境整備、登下校の見守り など

学校支援ボランティア登録

学習支援、環境整備、登下校の見守り など

重要

ボランティアの掘りおこし

PTA 活動を
中心に



子育て一段落世代



これまでと同様に、
できるときにできる範囲で



オラが学校!!みんなで、いつでも、かけつけるで!!